

巨大な溝

大下遺跡って何だるん？

謎の暗渠^{あんきょ}

多量の出土遺物

平成 30 年の夏、鈴鹿市稲生町の「大下遺跡」で、弥生時代の終わりから古墳時代の初めにかけての大溝から、たくさんの土器が発見されました。中でも注目されるのは大溝の西壁に設けられた木樋^{もくひ}です。全国に例をみない特殊な遺構として注目されています。

巨大な溝はなぜ作られたか？暗渠と木樋の役割とは何か？そして大下遺跡とはいったい何なのか？調査の成果と分析結果を手掛かりに、謎に迫ってみましょう！

鈴鹿市稲生町大下遺跡は堀切川の左岸に位置し、稲生山から南にのびた微高地の先端にあります。平成 30 年 7 月から 5 か月間かけて、発掘調査をしました。

調査の結果、幅 4 m、長さ 80 m、深さ 1.4 m 以上の大溝が見つかりました。大溝は大きく上下に分かれ、上層から古墳時代前期の土器が、間層をはさんで下層からは弥生時代終わりから古墳時代初め頃の土器や木製品が出土しました。

調査の最終になって、大溝の底に木製の樋^{とい}を使った暗渠があることが判明しました。木樋が設置されたままの状態出土することは極めてまれです。さらに、この大溝が当時の集落をかこいこむ溝^{かんごう}（環濠）であった可能性もあり、そうであれば全国的にも例のない発見となります。

暗渠の役割についてのいくつかの考え

①灌漑施設説^{かんがい}…木樋は弥生時代の前期から田んぼに水を引くために使われることがありました。

しかし、大下遺跡のまわりは水が豊かなので、あえて溝を掘って水を引く必要があるとは思えません。

②排水施設説^{はいすい}…溝に囲まれた集落内の地面を乾かすために、排水を目的として設置したとする説です。ただ、排水のためなら、わざわざ暗渠にする必要がありません。

逆に、木樋にふたをして水位を高くしていた可能性も考えられます。

③導水（祭祀）施設説^{どうすい さいし}…古墳時代の前期には、きれいな湧き水を木樋などを用いて導いて、王が神聖な「水の祭祀」行っていたと考えられています。

手の込んだ木樋の加工を見るとその可能性があるかもしれません。



導水（祭祀）施設のイメージ



大溝の上層から出土した国内最大級の S 字状口縁台付甕（口径 35cm）です。日常の煮炊き用とは思えません。複数個出土していて、この地が特別な祭祀の場であった可能性があります。



出土した木製品 木栓（建築用のボルト）と鋤（スコップの先端）



稲生地区の主要遺跡（1:25,000） 国土地理院電子地形図を加工
※ QR コードで詳しい説明や写真がみられます

鈴鹿市 文化スポーツ部 文化財課 発掘調査グループ

〒 513-0013

鈴鹿市国分町 224 番地 鈴鹿市考古博物館 内

TEL 059-374-1994

FAX 059-374-0986

URL <https://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/> （考古博物館 H.P.）

E-mail bunkazai@city.suzuka.lg.jp